

学 年	教科等	単元名	日 時
第3学年	外国語活動	This is for you. カードをおくろう	令和5年1月23日(月)5校時

○ 子どもの姿からの報告

- めあての設定および既習の語句や表現をふりかえる場面
 - ・ ゴールイメージや目的、場面、状況を掲示することで「仲間に気持ちを込めてグリーティングカードを作るために、自分の欲しいものを伝えて買い物をしたい」という思いをもつことができていた（板書写真の赤枠の部分）。
- 教師と子どものやり取りの場面
 - ・ 互いの目を見ながら、相手が欲しいものを確認したり、ジェスチャーを交えたりしながらやり取りを進めることが大切であると気づき、発言する姿が見られた。
- 代表の子どものやり取りを視聴する場面
 - ・ 話し手が気持ちよく話すことができるような反応の仕方を具体的に考えて、全体で確認することができた（板書写真の黄枠の部分）。
 - ・ 「相手とアイコンタクトをしながらやり取りができていた」、「相手に分かりやすいように、ゆっくりと話すことができていた」、「客の欲しいものを繰り返して言うことで確認ができていた」等の、仲間のよいところを学習プリントに記述することができていた。

【教師と子どものやり取りの場面】



【言語活動の場面】



【板書】



○ 考察

- 授業の冒頭で、教師が子どもに単元の目標、本時の目標を分かりやすく示し、教師がお手本を見せたうえで子どもに会話をさせることで、自信をもって仲間とやり取りをする姿が見られた。
- 中間指導で、どのような反応をすれば互いに安心して会話することができるかについてふりかえる場面を設定したことで、コミュニケーションのポイントを意識してやり取りをする子どもの姿が見られた。話をしている子どもの方を見て、集中して話を聴くことが定着している理由は、教師や仲間の発言を参考にして自分の表現を高めたいという子どもの思いが表れた結果だと考える。
- タンバリンでリズムを確認する場面では、教師が各単語の音節を意識し、音声学的に正しい理論でタンバリンを叩き、リズムを示すことで、子どもが正しい英語を使って仲間とのコミュニケーションを楽しむ姿が見られた。
- 学習活動のなかに ICT を活用していくことや、ALT の効果的な活用等、子どもの教育効果を更に高めるための手立てを講じることで、よりねらいに即した学習活動が展開されるであろう。